

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 松岡 陽太郎 |
| 学位の種類 | 博士 (医学) |
| 学位記番号 | 乙第291号 |
| 学位授与年月日 | 平成24年11月7日 |
| 審査委員 | 主査 教授 津本 周作 副査 教授 山口 清次 副査 教授 秋山 恭彦 |

論文審査の結果の要旨

網膜前膜 (epiretinal membrane; ERM) は黄斑部に発症する線維性細胞増殖であり、視力低下や歪視を伴う。ERMは手術で除去できるが、その治療効果はこれまで主に視力の改善を用いて評価されてきた。しかし、歪視を伴う患者では手術による満足度は視力の改善と必ずしも一致しない可能性がある。申請者らは、特発性ERM患者26例を対象に、視覚関連quality of life (QOL) 評価指標VFQ-25を用いて、手術前後における視覚関連QOLと視機能 (視力・歪視・中心黄斑厚) を術前・術後3か月、12か月で測定、指標の経時変化を比較検討、視機能改善度とVFQ-25の改善度の相関について調べた。術後3か月、12か月とも術前に比べて各視機能及びVFQ-25は有意に改善したが、VFQ-25総合得点との相関で有意差を認めたのは術後12か月の歪視改善度のみであり ($r=-0.552$, $P=0.0058$)、視力改善度に相関は認められなかった。以上の結果より、ERMの術後に最も患者満足度に影響を与えたのは歪視の改善であることが示され、ERM治療においては医療者側の評価指標と患者の満足度が一致していなかったことが明らかになった。本研究はERM治療における手術適応の決定や手術予後の予測という点において貴重な情報を提供した。